

JA あいち海部 自己改革の成果

2019年度

2022年度

～地域に必要とされる JA を目指して～



自己改革の目的

ＪＡあいち海部は、地域になくてはならないＪＡであり続けるため、自己改革の実践を支える持続可能な経営基盤の確立・強化とともに、組合員との徹底した対話を通じ、総合事業を基本として「不断の自己改革」に取り組んでいます。

令和４年度 自己改革の方針

1

訪問活動や座談会を通じた「担い手との対話」を原点としてニーズを的確に把握します。

2

農業者の売上増加・コスト低減につながる担い手目線の必要な取り組みについて、目標及び実践具体策の策定等とあわせて実践し、改革の目的である所得増大を実現するほか、地域の活性化にも取り組みます。



担い手経営体や中核的担い手等を対象として、次のことに取り組みます。

- ①基幹品目を中心とした契約・買取取引の拡大
- ②農地集積による効率的な生産基盤の整備
- ③収量増加・品質向上に向けた新品種の導入
- ④安定的な労働力確保による農業経営の維持・拡大



中核的担い手や多様な担い手等を対象として、次のことに取り組みます。

- ①播種前出荷契約による契約の拡大
- ②計画的な資材の取りまとめの実施



その他として、次のことに取り組みます。

- ①指定日引取の取組
- ②土壌診断の実施
- ③農機レンタル事業の利用拡大

また、これらの取り組みにあたり必要な農業資金の供給にも取り組みます。

改革の取り組みと成果について対話等を通じて評価を把握し、次の改革につなげることで、P D C Aサイクルを回し、自己改革を着実に実践します。

自己改革実践サイクル



**J A 役職員が
自己改革を実践する**



**実践内容を
組合員にお伝えする**



**意見を把握し
改善等の検討をする**



**取り組みを
評価していただく**

次代へつなぐ 地域農業ビジョンの策定と実現

地域農業ビジョンとは、多種多様な担い手ニーズを捉え、農家所得の向上と魅力ある地域農業の実現のため、10年先を見据えて2018年に策定した地域農業の目指す姿です。環境の変化に柔軟に対応するため、組合員との対話を通じて新たな課題を抽出し、部門別に対策を検討するなど定期的に内容を見直ししながら実践しています。



これまでの取り組み経過（抜粋）

令和元年度	部門横断的な支援に向けて、中核的担い手リスト（325名）を策定
令和2年度	主要4品目部会長へのヒアリングおよび農家の経営意向調査を実施
令和3年度	訪問活動による課題の抽出
令和4年度	遊休農地・空きハウスのマッチング

（令和4年9月末時点）

組合員との徹底した議論による意思反映

組合員との徹底した対話を通じ、ご意見やご要望を事業計画やJA運営に反映しています。

徹底した議論の場とは…

生産組合長会や地区別座談会、生産部会・代表者会、営農受託部会青年部・女性部、地区運営委員会総代会など



	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
開催回数	133回	180回	176回	90回
参加のべ人数	2,733人	2,393人	2,315人	1,106人
組合員意見数	119件	88件	92件	19件
うち、JA回答数	117件	87件	91件	19件

（令和4年9月末時点）

卒業生から
理事が誕生

組合員大学「みらいキャンパス」

幅広い見識と行動力を備えた組合員の次世代リーダー育成を目的に組合員大学「みらいキャンパス」を平成29年より毎年開催しています。常勤役員による講義やグループ討議、JA役職員との意見交換などを実施しています。令和2年6月の役員改選では、みらいキャンパスの卒業生から理事が誕生しました。



	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
参加人数	24名	コロナ禍で中止	19名	14名

准組合員モニター

年々増大する准組合員の意思をJA事業運営に反映させることを目的に、平成30年より「准組合員モニター」を開催しています。野菜ソムリエによる野菜講義やJA施設および生産者ほ場の見学などを通じて、地域農業応援への意識高揚を図るほか、JA利用に関するアンケートを実施し、店舗の改善に繋がっています。



	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
参加人数	35名	29名	9名	11名

担い手への総合的な支援

担い手担当と各部署が連携して出向く活動を行い経営診断や補助事業等の活用提案、ICT技術の導入支援、農業リスク診断などを実施しています。さらに、無料職業紹介事業の推進や特定技能制度を活用した外国人材の雇用支援、新規就農支援など、生産基盤の維持拡大や農家所得向上に向けて様々な支援を行っています。また、コロナ禍に関連する補助金の申請支援も行いました。



担い手担当による出向く活動 訪問結果

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
訪問回数	2, 264回	3, 148回	2, 771回

新型コロナウイルス関連の補助金申請 支援結果（抜粋）

	交付額	採択者数
高収益作物次期作支援交付金	2億7, 330万円	407名
経営継続補助金	1億5, 172万円	172名
農作業省力化設備緊急整備事業	6, 293万円	35名
農産物利活用支援事業	540万円	27名

農業資金ニーズへの積極的な提案

前年対比
令和3年度
県下No.1

令和3年度より農業融資担当を新設し、経済事業の担い手担当や園芸担当職員との情報連携や同行による農家訪問を通じて、組合員の幅広い農業資金へのニーズに対応する取り組みを推進しています。経営の安定や改善、効率化、高度化などの組合員の多様な資金需要に的確に応えることで、農業所得の向上に取り組んでいます。



農業融資 新規実行額

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実行額	4億1, 846万円	2億5, 207万円	3億5, 522万円

無料職業紹介事業

組合員の労力軽減や所得向上を目的に、無料職業紹介事業を令和2年度より実施しています。対象の職種を農業に限定し、人手を求める組合員農家と、農業で働きたい地域住民のマッチングを行っています。

(令和4年9月末時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
雇用成立数	42件	40件	15件



援農ボランティア

令和4年度
開始

組合員農家が抱える労働力不足の課題解決に向けて、准組合員から援農ボランティア会員を募集しました。初年度は管内特産の花ハスを対象品目とし、9名が参加しました。今後は他の作物でも募集を計画しています。

	令和4年度
参加人数	9名



就農塾および農業塾（農業教室・園芸教室）

産直部会員の新規育成や直売所の活性化を目指す就農塾や、家庭菜園に興味のある組合員や定年帰農者などに向けた農業塾（農業教室・園芸教室）を毎年開催し、地域農業の振興を図っています。

就農塾			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
参加者数	25名	19名	9名
産直部会加入者	17名	8名	4名



農業塾（農業教室・園芸教室）			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
参加者数	30名	16名	18名



農業リスク診断

農家の高齢化や農業の機械化に伴う農作業リスクの増加および施設賠償への備えなどを点検する農業リスク診断活動をライフアドバイザー（渉外担当）と経済担当職員が連携して展開しています。

年々高まる農業ニーズに対して安心して農業経営に専念していただけるよう、積極的に解決に向けた提案を行っています。



	令和元年度	令和2年度	令和3年度
診断件数	313件	300件	300件
提案件数	96件	140件	87件

SNSを活用した情報発信

地域農業やJAへの理解促進を図るため、YouTubeやLINE、InstagramなどのSNSを活用し、直売所のセール情報や管内の旬な農産物の紹介、剪定作業や栽培方法など幅広い世代へ情報を発信しています。



JAあいち海部 公式SNS



YouTube



LINE



Instagram

	登録者数
YouTube	5,264名
LINE	3,337名
Instagram	906名

（令和4年9月末時点）

地域の経済活動拠点化

令和4年1月 十四山支店
移転リニューアルオープン!

令和4年1月に十四山支店を移転し、金融・共済・営農・生活事業の相談機能を集約したことで、JAの総合事業の強みを発揮した施設が誕生しました。今後も当JAでは組合員の負託に応え、地域農業のさらなる振興と総合事業を通じた地域密着サービスの強化に取り組めます。

施設紹介

愛知県弥富市鍋平3丁目51番地



1. 総合支援センター



資産
ガス
葬儀

2. 南部営農センター



営農
農機
農地

大好評!

小型農機レンタル事業

組合員さま限定で、管理機や草刈り機、堆肥散布機などの小型農機を貸し出しています。1日単位でレンタルできますので、家庭菜園を楽しむ方にも最適です。



3. 菜々耕房



新鮮
安全
安心

4. 十四山支店



貯金
共済
融資

5. JA-SS



給油
灯油
洗車

産地強化に向けた取り組み



レンコン

新品種導入やプライベートブランド商品の開発など伝統産地として発展目指す！

新品種導入に向けた優良品種の試験栽培を毎年実施し、産地適合性を見極めながら、栽培時期や収穫方法ごとに適した品種を選定・普及することで反収増加を目指しています。

また、徳島県から講師を招き、海部地域では行っていない土壌太陽熱消毒の技術を学ぶなど、栽培技術の向上にも取り組み、更なる産地強化を図っています。

あわせて、れんこん缶詰やれんこんチップスを企画開発するなど、幅広い層にレンコンの消費拡大を促すため、販売面にも注力し、産地ブランド化に取り組んでいます。



これまでの取り組み

令和元年度	れんこん産地協議会設立
令和2年度	れんこん缶詰 発売
令和3年度	れんこんチップス 発売
令和4年度	れんこんラーメン れんこんうどん 新発売



イチゴ

第51回 日本農業賞 特別賞受賞！
新規就農支援事業もスタート！

あまイチゴ組合
集団組織の部
特別賞受賞！

あまイチゴ組合は平成29年に4組織が合併して誕生しました。同年にはイチゴセンターも竣工し、一元集荷・配荷の体制を確立しました。

また、収量増加・品質向上を目的にICT研究会を設立し、炭酸ガス濃度や湿度など環境制御技術を整理したことで、6年間で単収を44%増加させるなど、農家所得の向上を実現しています。

これらの取り組みが高く評価され、第51回日本農業賞では集団組織の部で特別賞を受賞しました。現在は、さらなる産地振興を目指して新規就農支援協議会を設置し、令和4年度には第1期の新規就農支援事業がスタートしました。



これまでの取り組み

平成28年度	ゆめのかに栽培品種を統一
平成29年度	イチゴセンター竣工
平成29年度	あまイチゴ組合設立
令和3年度	いちご新規就農支援協議会設立
令和4年度	第1期いちご新規就農支援事業スタート





トマト

市場実需者や消費者のニーズに合わせ
様々な出荷規格やパッケージを導入！

トマトセンターでは令和元年に選果精度の向上と有利販売を目的に選果機ライン更新工事を行いました。自動箱詰めロボ等による省力化や高精度カメラによる選別を導入したことで、A品率向上（平成30年度18.9%→令和3年度24.4%）並びに高位平準化が実現し、農家所得の増加に繋がっています。販売面では、トマトの色や形に応じた最適な市場出荷を行うために様々な出荷基準を設け新たな規格やパッケージを戦略的に導入し、消費者のニーズにきめ細かく対応することで売場の確保や販路拡大、契約取引の増加に取り組み、販売力強化を図っています。



これまでの取り組み

平成25年度	あまトマト部会設立
平成30年度	若手農家による糖度測定、勉強会の開始
令和元年度	トマトセンター選果機更新
令和2年度	セブン-イレブンのミックスサンドに使用



お米

南部カントリーエレベーター増強工事完了！
地域から必要とされる共同乾燥施設の運営へ

水田農業の生産振興と消費者および実需者から求められる良質な米づくりに向け、成長戦略として令和4年に南部カントリープラント増強工事を行いました。組合員のニーズに柔軟に対応しながら、地域に必要とされる共同利用施設の運営に取り組むとともに、作業効率の向上や生産基盤の拡大を目指し、農地中間管理機構と連携して担い手への農地の集積・集約を進めています。

令和4年5月
南部CE竣工



これまでの取り組み

令和3年度	南部地区共同乾燥施設再編及び育苗施設集約
令和4年度	南部カントリープラント増強工事竣工
令和4年度	玄米30kg袋に加えて白米10kg袋の保有米新設（南部地区） 

また、実需と結びつけた播種前出荷契約米の数量確保や農地中間管理事業の活用による農地の集積・集約、新品種の導入および普及拡大に取り組み、県下有数の水田地帯として更なる産地振興を目指します。





<https://www.ja-aichiama.com/>

発行／あいち海部農業協同組合 編集／企画部
〒496-0876 愛知県津島市大縄町9丁目6番地
TEL:0567-28-6760 FAX:0567-28-6655



当JAのHPはコチラから